

中島先生の記事に対するコメント

静岡産業大学 永田奈央美

中島先生の主張する「基礎情報学の3つの情報概念」は、小中高さらには大学の基礎教育でも教えるべき、真の情報教育であると感じました。

中島先生が指摘されたように、高等学校の教科情報が未だに IT 機器リテラシになっており、Word, Excel, PowerPoint の使い方を教えることを主流としている先生が多くいらっしゃいます。そのような中で、学習指導要領が次から次へと改訂され、「情報 A、B、C」の展開から「社会と情報、情報の科学」へと変わり、さらに今後「情報 I、II」へ改訂されると言われています。これだけ変化のある教科は他にないように思います。文科省が頭を悩ませている教科なのでしょうね。

中島先生の表現で、文科省のお考えが、「情報=コンピュータ」ではなく「情報=プログラミング」に変わったとありますが、シンプルでわかりやすいと思いました。プログラミング的思考やデータサイエンスに重きが置かれるように改訂すると聞いたことがあります。要するに、「情報=プログラミング」に変わったというのが私にはしっくりきました。中島先生の主張する「基礎情報学」は、本来高等学校で教育すべきコンピュータ教育であると思います。そして、その事に漸く社会も気づき始め、少しずつ変革しようとしているのではないかと思います。遅れていますよね。もうすでに、諸外国（韓国、イギリス、アメリカ等）はそんな改革を10年以上前にされているのですから。

このような社会的動向を中島先生の周囲の先生方はどのように捉えていらっしゃいますか？私の周囲の先生の捉え方は多種多様です。危機感をお持ちになっている先生もいれば、私の教科には関係ないと捉えている先生もいます。また、プログラミングを教えるのではなく、各教科でプログラミング的思考法を身に付けさせる「だけ」ならなんとかなると思われている先生もいます。一方では、プログラミングを学ばせるのではなく、プログラミング的思考を身に付けさせることの方がより難易度が高いと思われている先生もいらっしゃいます。このような現場の温度差を正し、各教科の先生方がプログラミング的思考法を意識した教科を展開していくには、まだ時間がかかりそうですよね。私は、中島先生のおっしゃる基礎情報学を少しでも多くの現場の先生方へ届けていきたいです。